

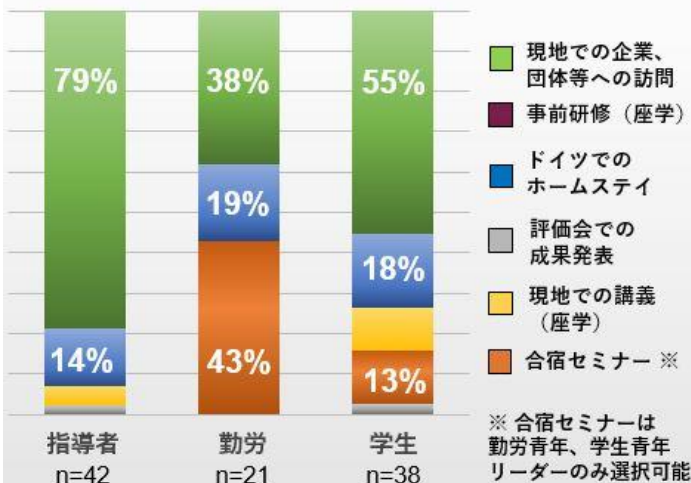
文部科学省委託

日独交流事業 日本人参加経験者に係るフォローアップ調査

当機構では、文部科学省からの委託により、青少年指導者、勤労青年、学生青年リーダーを対象とした日独交流3事業を実施してきました。本調査では、過去の参加者の現況等を把握し、今後の業務及び事業企画の参考とすることを目的として、これらの「日独交流事業」に参加した過年度の日本派遣団メンバーを対象に、アンケートを行いました。

I プログラムの満足度

最も満足したプログラム



- 全体として、現地研修での企業や団体等への訪問に対する満足度が高く、特に指導者セミナーの参加者では約8割が最も満足したプログラムに挙げている。
- 勤労青年では合宿セミナーの満足度も同様に高い。

II 事業参加経験はどのように役に立ったか

当事業への参加経験はどのようなかたちで役立ちましたか (複数選択可)

	指導者 (N=42)	勤労 (N=21)	学生 (N=38)
新たな事業・活動を実施した	18	5	9
論文や記事を執筆した	4	5	6
研修会等で発表(プレゼン)を行った	20	4	10
学校、職場、活動団体等で報告会を行った	34	17	28
語学など新しい学びやスキルアップのきっかけになった	22	14	28
進学、就職・転職先を決める要因になった	1	6	7
進学、就職・転職の際にプラスになった	0	3	15
留学に際して、役に立った	0	2	6

- 3事業ともに、参加者の多くが研修会等での報告やプレゼンによる成果発信を行っている。
- 半数以上が、事業参加が「新しい学びやスキルアップのきっかけになった」と回答し、自身の能力向上への意識がより高まっていることがうかがえる。
- 学生リーダーでは、進学・就職や留学に際して、事業参加経験がプラスに働いたケースも見受けられる。

III 事業参加後の渡航・留学経験

当事業に参加してから現在までに海外へ渡航しましたか



「はい」と答えた人の渡航目的 (複数回答可)

	指導者 (n=42)	勤労 (n=21)	学生 (n=38)
観光	15	9	22
留学	0	1	12
出張	4	2	2
研究・調査	3	2	0
ボランティア活動	2	2	3
国際交流事業	2	2	6

- 参加者の半数以上 (学生は約4分の3) が事業参加後、海外に渡航している。
- 学生では12人 (31.6%) に留学 (語学留学を含む) 経験がある。また、学生の内6人はアジア諸国など他の国際交流事業にも参加している。

IV 事業参加後の交流

(日本団メンバーおよび参加・協力したドイツ人)

< 同じ日本派遣団のメンバー >

- 参加者のほとんど (指導者 39/42 人、勤労 18/21 人、学生 37/38 人) が同じ派遣グループのメンバーと連絡を取り合っていた。
- 同窓会も各事業ともに10人前後が行っていた。
- 学生では38人中33人が私的に会って交流していた。

< 事業に参加・協力したドイツ人 >

- 学生では38人中36人がドイツ人講師や訪問先の担当者と、学生 (38人中26人) と勤労 (21人中20人) の多くがドイツ団のメンバーと連絡を取っていた。
- 指導者は勤労、学生に比べると割合は少ないもののドイツ人講師/訪問先担当者、ドイツ団メンバーとそれぞれ15名前後 (30%以上) が交流を図っていた。

【調査の概要】

平成26年～31年度に上記の日独交流3事業に参加した過年度派遣者301 (指導者92、勤労85、学生124) 名のうち、メール送信できた260名を対象とした。

(回収数: 101名 (男性50名、女性51名)、回収率: 38.8%、回答者年齢: 20～60歳代)

調査期間は2020年12月11日～2021年1月13日の33日間で、Web調査形式にて実施した。